

大濠人

2026

vol. 60

令和8年3月1日発行（通算64号）

「脊振嶺」

大阪・関西万国博覧会は、建設費の高騰、工事の遅れや工費の未払い問題等に揺れながらの出発だった。結果的には3千万人近くが訪れて盛会裡に幕を閉じた。先の1970年の大阪万博も昭和の高度成長期を象徴する賑わいを見せた。この年には大濠高校も2つの学年（18・19期生）が修学旅行で会場を訪れている▼修学旅行は学生時代の思い出の第一に挙がる行事である。その起源は1877（明治10）年に東京上野公園で開催された第1回勸業博覧会と花の都・東京の見学であったという。大濠高校の修学旅行も、創立以来東京を中心に京都・奈良を加えるのが定番で、他校もほぼ同じ形だった▼しかし、1981（昭和56）年から大濠では「個人では行く機会がない大自然での学び」という新たな目的を立て、時期を2年次3月から10月に改めて、北陸～アルペンルートへと変更した。昨年10月、フジテレビ系で博多華丸（本名：岡崎光輝、36回生）の「38年ぶりの修学旅行リライト旅」の特番を見た人も多いだろう。このコースは好評だった。その後は東北や北海道、沖縄。そして外国にも足を伸ばした。中国北京市やマレーシア・シンガポール、ニュージーランド、ベトナムなど。ところが同時多発テロや感染症流行のために国内に戻さざるを得なくなった▼今年度は、学校側からOBが勤める会社訪問の要請があり、関東支部の協力で企画が実現している。近年の教育界での学びの質や幅の変化は周知の通り、学校は社会に開いた新しい学びを取り入れようとしている。同窓会としてもフトコロの深さ・広さを後輩たちに提供するのにも重要な活動の一つである▼最前線ばかりでなく、目立たぬ場所で社会を地道に支えるのも人生の意義である。後輩に自己の生き様を見せることで改めて人生を見直すことにも繋がるだろう。同窓会活動に参加することによって、新たな人間関係と新たな自己の可能性発見への一歩を踏み出すことができるかも知れない。いざ！その第一歩、総会へ。



福岡大学附属大濠高校

第73回

大同窓会

大濠で出会い、大濠でつながる

2026年5月9日(土) 大濠中高校舎

〔受付開始〕
14:00

学校見学、部活動のパフォーマンスなどのイベントあり



大濠高校同窓会HP

QRコードをスキャンすると同窓会の様々な最新情報をご覧いただけます



大濠高校同窓会公式LINE@

QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。様々な最新情報をご覧いただけます



お問合せ

福岡大学附属大濠高等学校同窓会事務局
〒810-0044 福岡市中央区六本松1丁目12-1

発行人：河邊 哲司
TEL 092 (714) 1681 FAX092 (406) 8301



「縦と横」の絆

河邊 哲司

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃より同窓会活動に多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年8月に開催された「第72回大同窓会」では、お集まりいただいた多くの皆様とお話をさせていただきました。母校で学んだ3年間は、長い人生から見ればほんのわずかな時間ですが、福岡市内にあまたの高校がある中、同じ学び舎で人生が交差したご縁を噛みしめる、得難い機会となりました。

開催に先立って地元紙に案内広告を載せたのですが、その中で私は「出て、会うから、出会いがある」と述べました。日々仕事を抱え、あるいは家事や子育てに追われる中、会場に足を運ぶのは億劫なものです。特定の仲間とだけ繋がってれば十分だと考える人もいるでしょう。でも、参加してみると新しいきっかけに巡り合い、「来てよかった」と思うことも決して少なくありません。

「袖振り合うも多生の縁」といいますが、人生で出会える人の数は限られています。中でも深く交わるご縁はごくわずか。一步踏み出すことで、その後の人生が豊かになる「出会い」に出会えるかもしれません。

同窓会は「縦と横」の絆です。これからも魅力ある組織づくりに努めてまいりますので、多くの皆様にご自身の成長の足掛かりにさせていただければと期待しています。



第10代同窓会会長(21回卒)。福岡大学商学部卒業後、家業の久原調味料に入社し現在、4代目の社長。「キャベツのうまたれ」をはじめ、明太子の「椒房庵」、調味料の「茅乃舎」ブランドを立ち上げ、国内および海外にも進出し食文化の向上に貢献している。

第8回 就職交流会 (夏の成人式)

組織委員長 山本 純 (39回卒)

第72回大同窓会開催日程に合わせ 令和7年8月9日(土)福岡商工会議所(福岡市博多区)にて開催しました。

参加企業30社以上(全社大濠OB・OG在籍)、参加学生は目標の100名には及びませんでした。学生・企業様双方にとって非常に有意義な機会となり、アットホームな明るい雰囲気の中、まさに『一期一会』と言える交流会を開催できましたこと、ご協力頂いた皆様に対して心より感謝申し上げます。



新聞広告へのご協力お願いします

大同窓会開催前に新聞広告(見開き2ページ)を掲載しています。

名刺広告1枠30,000円です。個人・企業・OBOG会などで例年協力をいただいています。2枠・3枠も大歓迎です。

募集締め切り 2026年3月20日(金) ご協力いただける方は同窓会事務局までお知らせください。

連絡先: 同窓会事務局

TEL 092-714-1681 ・ FAX 092-406-8301

*掲載サイズは若干のサイズ変更がある場合がございます。

母校創立 75周年記念事業募金
今後も継続してご理解ご協力をお願いします。

- 金額: 任意 (1口5,000円として何口でも)
 - 西日本シティ銀行 六本松支店 普通0650088
 - 福岡銀行 六本松支店 普通2358097
- ※振込手数料は会員様にてご負担いただきますようお願い申し上げます。

支部活動総会

筑紫支部

那珂川・春日・大野城・筑紫野・大宰府
支部長 森實 久男(16回卒)

筑紫支部は、春日市、那珂川市、筑紫野市、大宰府市、大野城市の同窓生で構成し、毎年7月に定時総会と懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めています。

本年は大野城市のロイヤルチェスター福岡で総会及び懇親会を開催し、来賓の方々と支部会員併せて38人が集いました。総会では令和6年度活動報告や会計、監査の報告、令和7年度予算及び活動計画等のご承認をいただき、懇親会では参加者相互の親睦を深めることができました。



大濠つづじ会支部

久留米・鳥栖・小郡・朝倉・筑後地区
事務局 松本 竜四郎(20回卒)

大濠つづじ会は、昨年9月20日に令和7年度総会・懇親会を学校より田中学校長他1名、本部より河邊会長他5名をお迎えして、総勢32名(内2名の初参加)で開催しました。

つづじ会恒例の「マツタケじゃんけん」は、「マツタケ」が豊作でしたので、参加者全員にお土産としてお持ち帰りいただきましたが、ご協賛いただいた、ワイン、パスタ、ラーメン、久原だし、河邊会長賞(久原商品詰合せ)の争奪じゃんけんは大変盛り上がりしました。最後は全員で円陣をくみ声高らかに校歌の合唱を行い、更なる絆を深める事が出来ました。総会案内はFBにアップしています

ので、お見逃しなく!

<https://www.facebook.com/OHO.RI.TURUKAI/>

糟屋地区支部

会長 松島 岩太(38回卒)



マツタケじゃんけん大盛況

糟屋地区支部は、古賀市と糟屋郡7町の同窓生で構成しています。世代や立場を越えて同じ学び舎を原点とする会員が集い、母校の歩みを振り返り、そして未来を支える場です。先輩方が築いてこられた歴史と経験は、後輩たちにとってかけがえない指針となり、若い世代の新しい視点と活力は、学校の更なる発展の力となります。

つづじ会恒例の「マツタケじゃんけん」は、「マツタケ」が豊作でしたので、参加者全員にお土産としてお持ち帰りいただきましたが、ご協賛いただいた、ワイン、パスタ、ラーメン、久原だし、河邊会長賞(久原商品詰合せ)の争奪じゃんけんは大変盛り上がりしました。最後は全員で円陣をくみ声高らかに校歌の合唱を行い、更なる絆を深める事が出来ました。総会案内はFBにアップしています

関西支部

支部長 瀬戸 健仁(39回卒)

昨年9月27日に関西支部総会を支部会員24名、来賓11名の総勢35名にて開催いたしました。現在のところ1年に一回の活動となっております。次年度からは活動の回数及び幅を広げていきたいと考えております。

直近では2026年1月に新年会を開催予定です。2026年9月に予定しております総会では会員参加50名を目指してまいります。



総会、新年会とさらに充実

関東支部

支部長 勝目 秀登(31回卒)

例年通り10月の第3土曜日18日に総会を開催しました。本校から田中学校長先生、そして同窓会本部、関西支部、東海支部並びに、姉妹校の若葉高校同窓会の皆様、有信会様にもご参加いただき、総勢約60名の会となりました。

数年前から、関東支部独自のホームページを立ち上げ、SNSでも開催案内を行っていますが、ようやく浸透してきたのか、学生や若手が増え、一段と賑やかさが増してきました。今後各イベント情報の発信を続けて、関東一円にお住いの同窓生の皆様との交流を深めていきたいと思っております。関東在住以外の方もHPを是非ご覧下さい。

東海支部

支部長 古賀 宣成(38回卒)

定例は11月の第3土曜日、今年度は15日にホテル名古屋グランドパレスで開催しました。19名の参加でした。もともと関西や関東と違って大学や就職でこの地区に居住する大濠人は多くありません。しかし、支部活動が知られていないということも参加者が少ない原因だと思います。3月の剣道の全国選抜大会が愛知で開催されます。イベントへの応援なども支部の存在感を高める好機だと思います。



ました。乾杯後夫々の人生、近況報告で盛り上がりました。締めは校歌の絶唱と記念写真です。次回の八十歳傘寿(さんじゅ)に再開を約束しました。参加者一部は二次会へ。元気で。

71回生成人同期会幹事

石黒 莉々香(71回卒)

第71回生成人同期会の開催にあたり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。当日は恩師の先生方にもご出席いただき、135名が参加する会となりました。久しぶりに同期や先生方と顔を合わせ、懐かしい思い出話や近況報告を通して、終始和やかな雰囲気の中で交流が深めることができました。改めて人とのつながりの大切さを実感する貴重な機会となりました。今後この縁を大切に、また皆で集まれる日を楽しみにしています。



同期会報告

喜寿記念 卒業同窓会

令和7年9月26日金曜日午後2時から福岡サンパレスホテル&ホールで開催、今年度は77歳喜寿記念として懐かしい22名が集まり

三八会「80歳『傘寿』記念同窓会」記事は11ページをご覧ください

OBOG会開催報告

バレーボール部

会長 土井 崇道(38回卒)

本年は、バレーボール部にとって特別な年となりました。J.V.A第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会(ジャパネット杯)の高校バレー全国大会(2026)へ15年ぶり14回目の出場を果たし、多くの大濠人の皆様からご祝福、ご声援、ご支援を頂きましたこと心より感謝申し上げます。また、創部75周年という節目の年に、この朗報を迎えられたことを、OB会会長として、また一人の卒業生として大変誇らしく幸せに思います。



大濠高校バレーボール部は、これまで多くの先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統の上に成り立っています。全国の舞台上に立つことの重み、日々の厳しい練習、仲間と共に流す汗と涙——それらは時代が変わっても、脈々と受け継がれてきました。今回の春高出場は、選手一人ひとりの努力はもろろん、指導者の皆様の情熱、そして保護者や関係者の支えが結果としてあり、大濠バレー部の底力を改めて全国に示すものとなりました。

私たちがOBにとつて、後輩たちが同じコートに立ち、同じ志を胸に戦っている姿は、何よりの喜びです。15年という時間の中で、環境や指導方法は変わっても、「大濠の名を背負う誇り」は今も変わらず、

まさに『大濠魂』は、確かに受け継がれていることを実感しました。

創部75周年という歴史の節目に、再び全国の舞台へと歩みを進めた今回の春高出場は、大濠バレー部の歩みが決して途切れることなく、未来へと確かにつながっている証だと感じています。この経験が次代を担う後輩たちの大きな糧となり、さらなる飛躍へとつながっていくことを心より願っています。

OB会としても、引き続き後輩たちを温かく、そして力強く支えながら、この誇るべき伝統を次の世代へと繋いでいく所存です。で、今後のバレーボール部の活躍を見守って頂けると幸いです。

硬式野球部

会長 中野 正英(23回卒)

毎年恒例の「福岡大大濠高校硬式野球部OB会総会並びに懇親会」は、昨年12月28日、オリエンタルホテル福岡博多ステーションにて開催されました。93名の出席があり、皆さんの元気なお姿やお顔が拝見でき、喜ばしい限りでした。

出席者の中には、プロ野球関係者が古賀悠斗(65回)捕手(西武ライオンズ)を含め5名出席。又、「もち浜ストア」や「天神ナウ」等に



バスケットボール部

関東支部長 撫養 和則(47回卒)

出演の石橋弘崇T.N.Cアナウンサー(63回)や中山鷹輔ポトリサー(71回)も初参加。皆さん、一緒に記念撮影を行ったり激励をしたりで、非常に楽しそうでした。今年の更なる活躍が期待されます。皆さん、母校硬式野球部とともに、応援を宜しくお願いします。

バスケット部OB会関東支部は、早いもので設立以来15年を迎え、今回も12月に総会と、ウインターカップ(全国大会)出場を激励の会を開催いたしました。



片峯聡太監督にも優勝への力強いお言葉をいただくことができ、大いに盛り上がった会となりました。

撫養支部長のもと、スタッフの尽力で学生の参加も増え、福岡の本部とともにOB一同親交を深め、良き伝統のもと進化し続けるバスケット部を、これからも微力ながら支え続けていきます。



新聞部相聞会

会長 吉田 岳久(30回卒)

新聞部OBOGの相聞会は定例総会・懇親会を3月の第3土曜日に定めている。昨年は3月15

日に博多区博多駅東の八仙閣本店で開催した。関東や関西からも毎年参加する会員も含めて30名、新役員会長吉田岳久(30回)、事務局長西方良昭(59回)の運営で行われた。

第1回チーム対抗ゴルフ大会



昨年10月27日(月)久山カントリー倶楽部(福岡県糟屋郡久山町)におきまして、初めての試みとして第1回大濠高校同窓会ゴルフ大会チーム対抗戦を開催致しました。

普段からのチームワークを活かして団結して各チームが精一杯に戦いました。全17チーム(65名)の皆様にご参加頂き、栄えある第1回優勝チームの座には硬式野球部Cチームが輝きました。

ラウンド終了後の表彰式も大変に盛り上がり、第2回も是非開催して欲しいとのお声を沢山の方々から頂戴致しました事は主催者冥利に尽きます。

こちらの方も継続して行ってまいりますので、また多くの皆様方のご参加の程を何卒よろしくお願い申し上げます。



高校OBOGゴルフ大会



親睦促進委員会 委員長 川井田 伸司(39回卒)

昨年6月4日(水)久山カントリー倶楽部(福岡県糟屋郡久山町)におきまして、第9回大濠高校同窓会ゴルフ大会が行われました。

最年長は4回卒の方から最年少は63回卒の方まで総勢92名(24組)の方々にご参加頂き、絶好のゴルフ日和にも恵まれ、多くの笑顔に包まれて盛況のコンペとなりました。

2026年はいよいよ第10回目の記念大会となります。更なる盛り上がりを目指して、ご参加の皆様方に喜んで頂ける大会となりますように邁進してまいります。



「正解のない時代」をどう楽しむか— 西新での放課後から、食のグローバルリーダーへ

【対談者】ゲスト **大櫛 顕也** (株式会社ニチレイ 代表取締役社長)



● 今回の大濠人インタビューは、日本の食卓を支える冷凍食品のパイオニア、株式会社ニチレイの大櫛顕也社長（30回 / 昭和58年卒）です。大櫛社長の高校時代の思い出へと遡っていきました。西新の街で過ごした「帰宅部」としての青春時代から、決して順風満帆ではなかったという若手社員時代、そして中国での工場立ち上げを経てたどり着いた現在のリーダー論に至るまで、後輩たちへのメッセージを込めた熱い対談の記録です。（関東支部 後藤 駿典）

1 厳しかったけれど楽しかった、大濠での「帰宅部」時代

記者：まずは、どのような高校生活を送られていましたか？

大櫛：実は、記事にできるような立派な話がありません（笑）。正直あまり勉強はしていませんでした。文武両道と言われて入学したものの、中学卒業直後の思春期特有の斜に構えたところがあって、部活にも入らず「実質帰宅部」でした。私はよく西新で食べ歩きをしたり、友人と集まって音楽の話をしたり、バンドを組んで文化祭のオーディションに出たりしていました。結局オーディションで落ちてしまいましたが（笑）。ただ、高校生活自体はとても楽しかったんです。いろいろなタイプの親を持つ友人がいて、喧嘩もしながら多様な話をした記憶があります。

記者：当時の先生方は厳しかった記憶がありますが、いかがでしたか？

大櫛：めちゃくちゃ厳しかったですね。特に風紀面。髪の毛が眉毛についたらダメで、校門で先生が立っていたんです。でも、不思議と学校に行くこと自体は面白くて、皆勤賞に近いくらい真面目に通っていました。厳しい環境の中でも、友人たちとの放課後の活動や、学校生活そのものを楽しんでいたんだと思います。

2 「食なら食いつぶぐれない」で選んだ道と、初任地での苦勞

記者：高校卒業後、一浪を経て九州大学に進学されていますが、なぜ農学部を選ばれたのでしょうか？

大櫛：元々食を食べることが好きだったのと、建築にも興味があったのですが、設計の難しさを知って断念し、「食べ物ならなくなることはないだろう」という理由でした。当時バイオテクノロジーが流行っていたという動機もありました。大学では食品衛生工学科で、遺伝子組み換え以前の技術でポテトとトマトを掛け合わせる「ポマト」に関する研究室にいました。ただ、物理や数学が好きで、化学の実験のような同じことを繰り返す作業があまり好きではなくて……。教授からも「君は研究職は無理じゃないか」と言われるほど、研究には向いていない学生でした。

記者：その後、ニチレイに入社された経緯は？

大櫛：当時は売り手市場で、いろんな企業から声がかかる時代でした。その中でニチレイの人事担当者がとてもフレンドリーで、「ここなら仕事ができそうだな」と直感して入社を決めました。でも、配属されたのは大阪の高槻にある冷凍食品工場だったんです。

記者：希望されていた部署ではなかったのですか？

大櫛：全然違いました。営業や研究職のような部署に行きたかったのに、配属されたのは工場。朝6時過ぎに出勤して、機械のセットや修理、掃除の繰り返しです。さらに、原料処理の工程では、入荷した玉ねぎの皮を剥いてひたすら機械に投入する作業もありました。玉ねぎの影響もあってか涙を流しながら毎日働いていました。同期は楽しそうに働いているのに、自分だけこんな環境で。入社してすぐに「辞めたい、福岡へ帰りたい」と思っていました。

3 「辞めたい」からの逆転、自ら手を挙げて掴んだキャリア

記者：そこからどのようにしてキャリアを切り拓いていかれたのでしょうか？

大櫛：ちょうど入社3年目くらいの時に、社内公募制度（手挙げ制）が始まったんです。手を挙げれば好きな部署に行けるというもので、私はすぐに「アセロラドリンク」の部門に応募しました。人事とも日程調整をして、当時の工場のメンバーには秘密裏に大阪から東京へ向かいました。ただ、当該部署は既に先輩が異動することが決まっていた、ガッカリして大阪に帰ってきました。翌日、出勤すると工場長に呼び出されて「そんなに今の仕事が嫌なのか、何をしたいんだ」と親身に聞いてくれたんです。そうしたら、希望に近い部署へ異動させてくれました。「あとは自分で考えろ」と。そこからは、いろんな人を巻き込みながら仕事をするようになり、急に面白くなってきたんです。もしその異動がなかったら、多分辞めて福岡に帰っていたと思います（笑）。工場での最初の3年間は辛かったですが、今振り返れば無駄ではなかったと思います。

4 中国での工場立ち上げ、グローバルな現場で学んだ「ベクトル」の力

記者：その後、海外事業にも携わられたとお聞きしました。

大櫛：はい。1995年頃、労働集約型の産業が海外へシフトする中、中国の山東省・煙台（エンタイ）での工場立ち上げを命じられました。当時はインフラも整っておらず、赤土だらけの場所で、冷凍食品の概念すらない現地スタッフに日本品質のモノづくりを教えるのは至難の業でした。

記者：言葉の壁もあったのではないのでしょうか。

大櫛：採用した現地の若いスタッフたちの熱意がすごかったです。彼らは日本製の機械の分厚い取扱説明書を辞書を引 きながら読み解いてしまう。「10年後、20年後には日本に追いつくんだ」という気概で技術を吸収していく姿を見て、こ れは日本人としてうかうかしてられない、グローバルとはこういうことかと痛感しました。

聞き手：現場のエネルギーが凄まじかったんですね。

大櫛：日本人なら「前例がないから無理」と諦めるようなことでも、彼らは「ないなら別の方法を考えよう」とシンプルに 動くんです。国籍や価値観は違っても、全員のベクトルが「良いものを作ろう」「ステージを上げよう」という一つの方向に 向いた時、組織が力強く動いていく快感を覚えました。あの時の経験は、今の仕事のベースになっています。

5 来るもの拒まずで目の前の仕事に取り組む姿勢で社長へ

記者：順調にキャリアを重ねてこられました。若い頃から社長になることを意識されていたのでしょうか？

大櫛：よく若手社員から「いつから社長を目指していたのか」と聞かれますが、実は全く意識していませんでした。私のキャ リアは基本的に「来るもの拒まず」です。目の前の仕事に取り組むうちに、中国での工場建設や物流部門など新しい「立ち上 げ」の仕事が次々と舞い込み、それらをえり好みせず、断らずに引き受けてきました。社内的には亜流とも言えるキャリア を経て今に至ります。経営に必要なスキルも、座学ではなく全て実践の中で身につけました。経験のない分野については、 知っている方々にひたすら教を請いながら学んできました。そうして現場で物事を俯瞰する癖をつけてきたことが、今 の経営判断のベースになっています。

6 カリスマでなくていい。チームで動く環境を整えるリーダー像

記者：様々なご経験を経て社長になられました。大櫛社長が目指すリーダー像とはどのようなものでしょうか？

大櫛：私は「俺についてこい」というカリスマ型のリーダーではありません。そもそも人から「こうしろ」と命令されるの が嫌いな性格です。私が目指すのは、チームで動く環境を整えるリーダーです。大きな戦略や方向性は示しますが、 実行段階では現場のメンバーが自分たちのやり方で力を発揮できるのが一番いい。組織にはどうしても「部署の壁」が できますが、本来仕事はチームで行うものです。プロジェクトのように必要なメンバーが集まって、役割分担をしながら自 然と助け合う。そんな働き方ができる会社になりたいと思っています。

7 「答えのないこと」について語り合った過去がかけがえの無い経験

記者：最後に、大濠高校の同窓生や現役生に向けてメッセージをお願いします。

大櫛：高校時代、私は決して「いい学生」ではなかったかもしれませんが、仲間たちと「答えのないこと」について語り合 った時間はかけがえのないものでした。今の時代、学校の勉強のように必ずしも正解があるわけではありません。誰かの指示 を待つのではなく、分からないなりに自分で考えて、未来を選択していくことが求められています。若い皆さんには、選択 肢がたくさんある今の時代を楽しんで、本当にやりたいことを自分で見つけてほしいですね。

大濠人の活躍

千葉ロッテ 2 位指名 毛利 海人 (68 回生)

硬式野球部の投手として甲子園(選抜)大会でも活躍した毛利 海人(もうりかいと)が昨年10月のドラフト会議で千葉ロッ テマリーンズに指名され、プロ野球入りすることになった。 151キロのストレートと多彩な変化球を操る左腕で全ての球 種に制球力が安定している。大濠人のプロ野球現役の登録選 手は9人目となる。背番号は13。

大濠高校時代は九州大会準優勝、選抜高校野球大会ベスト 8の牽引力を果たした。卒業して明治大学に進学。東京六大学 リーグでは4年次の春6勝0敗、秋4勝0敗と活躍し、両シ ーズともベストナインに選ばれ、日米大学対抗にも登板し最 優秀投手となる。

韓国球界へ 森山 良二 (29 回生)

硬式野球部 OB の森山良二は、ソフトバンクホークスを退 団し、韓国サムスンライオンズの二軍監督に就任し、新天地で 新たな使命を担うことになった。

彼は1981(昭和56)年投手として大濠初の夏の甲子園出 場を果たす。卒業後は北九州大学に進み、西武ライオンズにド ラフト1位で入団、その年新人賞を獲得した。現役を引退して からは四国九州アイランドリーグ所属チームの監督や横浜、 西武、東北楽天、ソフトバンクの投手コーチなどを務めた。

世界陸上 森 (65 回生)・今泉 (67 回生)

昨年9月世界陸上東京2025が行われ大濠人2名が参加 した。駅伝部 OB の森也(65回)は5000mの日本代表として 出場した。中央大学時代は箱根駅伝で活躍し、今年のニュー イヤー駅伝でもHONDAの1区エースで注目を集めた。

陸上部 OB の今泉堅貴(67回)は混合4×400mリレーの3 走として走り8位だった。大濠中時代から短距離・リレーで 活躍し、筑波大学を経て現在は内田洋行に所属している。

NHK 大河ドラマの 秀吉役に挑む 池松 壮亮 (56 回生)

今年大河ドラマ「豊臣兄弟！」(NHK 総合毎週日曜夜 8 時~ほか※NHK ONE で見逃し配信中)で主人公・仲野太 賀の豊臣秀長役と共に池松壮亮が兄秀吉役を演じている。 大河ドラマには子役・少年役を含めて3回目の登場となる。 秀吉は謎の多い人物で、最近は個性派の竹中直人やム ロツヨシなどによって劇的な人物像として描かれている が、反面、戦国時代の権力の頂上に昇りつめた威厳も両立 させる演技が見せ所なのだろうか。

2003年ハリウッド映画「ラストサムライ」で映画デビュー。

高校在学中は軟式野球 部に所属しながら「蒼 き狼」ではモンゴルで の撮影などもこなした。 「宮本から君へ」「アジ アの天使」「シン仮面ラ イダー」の主演などから 2024年芸術選奨文 部科学大臣新人賞を獲 得。イチロー選手に憧 れた野球少年池松が大 濠高校・日本大学を経 て、(世界の)映画界に 大きく羽ばたいた。そ のさらなる進化のど真ッ 最中の演技力を見届け たい。



(C) NHK

剣道部堂々の日本一

玉竜旗 14年ぶりの連覇 インターハイ大濠同士の決勝

昨年7月25～29日に福岡市総合体育館（セキスイアリーナ）で開催された玉竜旗争奪高校剣道大会で剣道部は一昨年に続き9回目の優勝（14年ぶりの連覇）を果たした。この大会は国内ばかりでなく韓国からも全505校が参加し、5人の勝ち抜き団体戦で行われた。

2回戦5人抜き、3回戦・6回戦でも4人抜きと順調に勝ち進み、準決勝は伝統校の高千穂（宮崎）。中堅の矢野（3年）が相手大将と延長4回に及ぶ熱戦を制した。決勝は積年のライバル九州学院（熊本）。

一勝同士で大將戦にもつれ込み、延長戦の末この大会初めての出番だった森（3年）のコテで優勝を決めた。

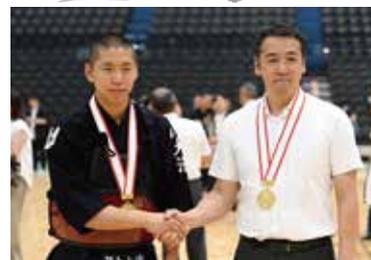
また8月7～10日に広島県で行われたインターハイの個人戦には、森（3年）と林（同）が出場、互いに準決勝を延長の末勝ち進み、史上初の大濠同士の決勝となった。この試合も緊迫した4回の延長（18分以上）、最後は森の引きドウが決まり熱戦が閉じられた。



玉竜旗優勝の選手達



インターハイ個人戦の表彰式



森監督と大將をつとめた次男、大瀬



玉竜旗大会の表彰式

柔道部竹下インターハイ

柔道部竹下、世界でも金！ 団体は金鷲旗大会ベスト8

柔道部には久々に世界で勇躍する選手が現れた。

遑って8月13～17日に岡山で開催されたインターハイ個人100kg級で優勝、また9月の20歳以下の全日本ジュニア選手権大会でも大学生4人を圧倒して優勝を飾った。その結果を受けて出場した世界大会Maribor Junior European Cup2025（スロベニア開催）でも優勝、世界戦へのデビューも果たした。向かうところ敵なし、国民スポーツ大会の福岡県少年チーム副主将としても全試合に勝利して優勝に貢献した。

また団体戦で行われる7月の金鷲旗争奪高校柔道大会では竹下の6回戦・準々決勝での3人抜きなどで国士館（東京）相手に金星を上げるなどしたが、ベスト8で涙をのんだ。



向かうところ敵なしの竹下

バスケットボール部

ウインターカップ2年連続の優勝！黄金期を着実に築く

昨年12月29日に決勝が行われた全国高校選手権（ウインターカップ）でバスケットボール部は東山高校（京都）に26点の差をつけ連覇、5度目の優勝に輝いた。世代別の日本代表の中心を担う2年生エース本田とスーパー1年生と言われる白谷、それに5人の3年生が日替わりで得点・守備の主力を競って役割を果たした。

3回戦では開志国際（新潟）と延長までもつれて最終は2点差、準決勝の鳥取城北とは3点差という厳しい試合を乗り越えて進んだ決勝。選手層の厚み、特に5人の3年生は力も伯仲し片峯監督の信頼にも応えて役割を果たした。決勝の東山戦はそれまでの試合で交代してスタミナを蓄え

ることができたこともあって「実力以上の大差」（監督談）で攻守共に圧倒して勝利した。この試合でも相手が9人なのに対して大濠は15人がコートに立って戦っている。決勝でのシュート成功率は3ポイント38.9%、2ポイント56.4%、フリースロー91.7%、驚異的な数字である。

過去には決勝に進みながら能代工、明成、福岡第一等に優勝を阻まれてシルバーコレクターと揶揄されることもあった。王者の風格を堅持する、さらに高みを目指す後輩たちに声援を送りたい。なお、日清食品トップリーグでも連覇を果たしている。

- 1回戦 84-41 報徳学園(兵庫)
- 2回戦 99-62 羽黒(山形)
- 3回戦 77-75 開志国際(新潟)
- 4回戦 81-67 土浦日大(茨城)

準決勝 69	<table border="1"> <tr><td>21-13</td></tr> <tr><td>16-16</td></tr> <tr><td>17-23</td></tr> <tr><td>15-14</td></tr> </table>	21-13	16-16	17-23	15-14	66 鳥取城北(鳥取)
21-13						
16-16						
17-23						
15-14						

決勝 97	<table border="1"> <tr><td>25-13</td></tr> <tr><td>30-24</td></tr> <tr><td>21-19</td></tr> <tr><td>21-15</td></tr> </table>	25-13	30-24	21-19	21-15	71 東山(京都)
25-13						
30-24						
21-19						
21-15						



クラブトロージャンズ会長 大高英弘(27回生)談

可能性はあるがそんなに甘くはない、準決勝を乗り切れば道が開けるのかも知れないと期待もしていた。選手は勝つことよりも、個人の技量を磨きチームプレーを繰り返し確認することで日々を過ごしている。その懸命の努力の積み重ねがゲーム中の光るプレーに結びついて僅差で勝つ。そんな勝負の醍醐味が特に見られたのが今回の大会だった。心身ともに鍛えられた選手が集まって来て、大濠の伝統(監督も含めて)の後押しも相まってこの快挙が成し遂げられたのだと思っている。応援、ありがとうございました。



バレーボール部

「春高」県代表を奪い還す！15年ぶりに古豪復活

バレーボール部は2023年のインターハイに続き、昨年11月「春高」の県予選で優勝し14回目の出場を果たした。夏の県大会で接戦を演じながらストレートで負けた東福岡に3-1でリベンジしての優勝。就任2年目の前園監督は、全国大会は自分を表現する場所、積み上げた一人ひとりの個性とチームの力を発揮して全力で楽しみ、明るく希望を持ってチャレンジしてほしいと抱負を語った。

福岡県大会決勝	<table border="1"> <tr><td>25-23</td></tr> <tr><td>23-25</td></tr> <tr><td>25-22</td></tr> <tr><td>25-23</td></tr> </table>	25-23	23-25	25-22	25-23	1 東福岡
25-23						
23-25						
25-22						
25-23						



本大会は1月5日から年末にバスケット部が優勝で沸かせた東京体育館で始まった。1回戦は不戦勝で、緒戦は小松大谷戦。セッター大久保(3年)の絶妙のトスワークで攻守が噛み合い余裕で勝利を飾った。「古豪の貫禄」と評され、優勝候補にも挙がった。3回戦は国民スポーツ大会準優勝の東山、奇しくもバスケットボールの決勝と同じ対戦となった。中盤までは一進一退の接戦を繰り広げ、第2セットでは一時先行もしたが、この大会に優勝した東山の底力に押され、終盤に逃げ切られる展開となった。

アタックエース新山は2年生、他の1・2年生もこの大会の経験を生かして大濠バレーも黄金時代の復活を目指す。

2回戦 大濠 2	<table border="1"> <tr><td>25-15</td></tr> <tr><td>25-15</td></tr> </table>	25-15	25-15	0 小松大谷(石川)
25-15				
25-15				

3回戦 大濠 0	<table border="1"> <tr><td>21-25</td></tr> <tr><td>19-25</td></tr> </table>	21-25	19-25	2 東山(京都)
21-25				
19-25				



野球部

両野球部、秋の九州に出場

硬式野球部は県大会で準優勝し、宮崎県で開催された秋の九州大会に出場した。西日本短大附属、東筑、久留米商業など強豪校に勝利しての出場権獲得だったが、1回戦で熊本工業に1-4で敗れ、春の選抜候補には届かなかった。県決勝で及ばなかった九州国際大附属は同大会でも優勝し、明治神宮大会でも頂点に立って日本一となった。夏の県大会では強力な難敵となる。

軟式野球は県大会11-2で糸島農業に勝利し、2季連続21回目の九州大会出場を果たした。緒戦は開進(熊本)に7-6の再逆転でサヨナラ勝ち。準決勝は鹿児島実業に0-3で惜敗した(春は準優勝)。

弁論部

高文祭弁論は奨励賞

かがわ総文祭弁論部門(7月)には大田勲胤(3年)が出場し、奨励賞。演題は「余白を彩れ!」、自分や他人に対する評価を数値化された情報に依存する現代の風潮に対する警鐘を訴えたものだった。

また10月の県高文祭でも内野花音(1年)が最優秀賞に輝いて、来年度の総文祭の5年連続出場を決めている。

吹奏楽部

吹奏楽部マーチング全国大会

吹奏楽部はマーチングバンド全国大会九州予選高校の部で金賞(1位)を獲得し、12月6・7日さいたまスーパーアリーナで開催された本大会に、13年連続の参加を果たした。結果は大編成の部で銀賞だった。



音楽コンクール

太宰府音楽コンクール銀賞

昨年4月20日プラムカルコア太宰府で行われた第1回高校生音楽コンクールで阿部真歩(1年)がバイオリン部門で、銀賞および太宰府市長賞を獲得した。このコンクールは次年度同市に新たに開学される音楽大学が若手の音楽家の育成を目指したもの。全国から予選審査を通過した27人がピアノ・バイオリンなどの5部門で演奏を披露した。

金・銀賞は合わせて6人だった。



新聞部

年間紙面で優秀賞

昨年7月下旬香川県で行われた全国高校文化祭新聞部門。新聞部は16年連続出場で、今年も高評価を獲得した。全参加の中から2校が選ばれる活動発表の担当、また年間紙面審査賞の最終結果で昨年に続く優秀賞(最優秀5校に次ぐ賞)だった。

過去には新聞社主催の様々なコンクールが開催されていたが、現在は高文祭のみが活動を評価する場となってしまった。今年は新聞部も創設70周年、発行した新聞は226号を数える。「大濠新聞 NEXUS」(定期号)、「大濠新聞 FLASH」(号外)が生徒の手による学園の報道機関としての役割を磨いている。

模型部

模型部トリプル受賞

第17回全国高校鉄道模型コンテスト全国大会のモデル部門で三賞を受賞した。全国から189校が参加し、入場者も1万人を越えるこの大会で「理事長特別賞」(5位)「JR九州賞」(特別賞)「ベストライター賞」を受けた。「自然と人工物の融合」をテーマに、長垂海岸を列車と平行して車両も走るジオラマを制作した。特に踏切の信号を制御する自作の回路や硬式野球部のバスを忠実に再現した精密な造形が高く評価された。

応援指導部

チアリーディング日本選手権5位

昨年8月28~31日に、東京国立代々木競技場で行われたチアリーディング JAPAN CUP で応援指導部が自由演技部門5位入賞を果たした。全国唯一の男子だけの16名、九州予選では史上初の大学生を含めた全部門での一位を獲得しての出場だった。大会では技の難易度や完成度、正確性、スピードのほかチーム全体の笑顔や協調性も評価される。初日の準決勝は210・5点で勝ち抜き、翌日の決勝では部として歴代最高の223点をあげた。



マリンバの世界大会優勝

昨年7月12~19日オーストラリアのパースで開催されたマリンバフェスト2025で松田昭桓(1年)が18歳以下のAクラス部門で優勝を飾った。アメリカなど世界10カ国から72名が出場した中での栄冠。





住めば「里山」、熊本過疎の村で生き生き農業 青木重夫 元校長先生（6回生）を訪問

熊本県山鹿市椿井、2013（平成 25）年から移住し農業を始め 13 年目を迎えた青木先生（86 歳）を訪ねた。元体育科柔道の徳永晃一先生の生家を譲り受け、見ず知らずの土地で近在の耕作放棄地を借りて奥様と共に勤しんでいらっしゃる。

記者：ここはどういう村ですか。

青木：8 年前の 2017 年はの村の人口は 73 名でした。2025 年には 53 名です。しかも 1 人住まいが多く、平均年齢は 80 歳ぐらいです。高齢者の孤独化を防ぎ、近所つき合いを促進し、健康寿命を延ばすために老人会の活動を盛んにやっています。ふれあいサロンで雑談したり笑い合ったり、カラオケやひょっとこ踊りなど「なごやか会」会長の私も多彩な行事を発案したり挑戦したりしています。老人会では中堅です（笑）。隣近所の人のつながりは強く、みな下の名前呼び合っています。

記者：農業はいかがでしょう。

青木：特産物であるスイカをビニールハウスで作っています。ニンニクやカボチャ、タマネギがうまくできたら山鹿青果市場や福岡の合同青果に出荷します。他に我が家の食卓用の色々な野菜ですね。日本蜜蜂も巣箱 4 箱あったけど、3 箱は逃げられました（笑）。農業は難しくその分、日誌をこまめにつけて勉強する日々です。ビニールハウスなどの建材費、苗や肥料などの経費と作物の収入をトントンにと目指していますが、現状は年間 40 万円ほどの赤字です。卒業生からは時々「道楽」でやってると笑われています。



伸むつまじい農家のご夫妻



ビニールハウスでの作業中にお邪魔しました



書籍紹介

『なんにも知らない義経のこゝろ』 義経記による中世世界の解剖』

源義経、歴史上の偉大なるヒーローである。しかし、史に残る彼の事績は治承 4（1170）年の兄頼朝との対面から文治 5（1189）年に討ち死にする僅か 9 年間のみしかない。さらにその武勇を引き立てる役割の武蔵坊弁慶にいたっては『平家物語』にもほとんど登場しない。二人の史書に残らないドラマは主に『義経記』が補っている。この語り物と見られる作品は、いったい誰が語り歩き、まとめたのか？古典文学や語り物を知り尽くした著者の探求の旅が始まった。嗅ぎつけたのが諸国をさすらう熊野比丘尼たち。その関与の証左は得られるのだろうか？研究書でありながら作品を読まずともその臨場感が伝わってくる。ウン面白い。日本の中世社会は古典作品や芸能が庶民の嗜好を取り入れるようになった。その文化史転換の魅力をも大いにそそらせてくれる。

著者の佐々木英治は大濠高校 24 回生。國學院大学大学院（修士）を修了して修猷館・筑紫丘高校教諭、長く県国語部会の運営にも携わった。定年退職後は「大人の古典道場」を主宰して古典文学を講義・考究している。

海鳥社刊 四六版 264 頁（1,800 円＋税）



福岡の高校生を魅了した
至宝の授業が蘇る！

記者：特に苦労談はありますか。

青木：一昨年 6 月のことですが、ハウスにスイカの苗 100 株を植えて、密閉した状態で一日熊本に出掛けました。帰ってみると蒸れて全滅でした。留守はできないのがハウス農業なんです。身を以て学びました。最近は獣害にも悩まされています。クマ・トラ・ライオン以外は何でもいる。特にイノシシは日中でも堂々とかつ歩しているんです。電気柵で防ぎしかないので、逆に猟師やってる人から肉の戦利品をもらったりします。

記者：なぜ農業、なぜこの土地だったのですか。

青木：退職して 10 年間は糸島付近を探しましたが、九大の移転の影響もあって見つからない。そんな時に徳永晃一先生と話が進みました。生きて行くためには水・土・空気が必要です。椿井は丘陵地帯で湧き水が多く、菊池川が流れ、田畑が広がっています。妻は反対でした。しかし、メリット・デメリットを表にして考えていたようですが、最後は大濠人特有の頑固さ（記者注「頑固一徹」の方が相応しいか？）に同調してくれて「住めば都」と思い切ってくれました。

記者：最後にまとめを御願います。

青木：ここに来てしばらくして妻の膀胱ガンが見つかって九大病院で手術しました。ここでは時間外でも往診してくれる病院もあって却って便利なのですが、大きな病院はありません。だから福岡にもどらないかんかなとも考えました。しかし、その後は 2 人も病気が知らず。前向きにやってこそ希望は実現する。努力した結果として希望はかなうものだと思います。作物を植えるとその生育と収穫が楽しみにもなり、励みにもなります。農業は生き方を学び、それを支えてくれるものだと思っていて、さらに頑張ります。

▶ 三八会「80歳『傘寿』記念同窓会」開催さる！



大濠高等学校三八会同窓会 会長 梶原 昌幸

私たち三八会（10 回商業科卒業）は令和 7 年 4 月 26 日『八仙閣本店』におきまして 27 人の同窓生にご出席いただき、三八会「80 歳『傘寿』記念同窓会」を開催致しました。

当日、会が成功裏に進行出来ましたのは、母校大濠高等学校より田中慎吾校長先生、大濠高等学校同窓会本部より堀秀明同窓会副会長、百田篤同窓会元会長にご臨席を賜りましたことや、当日ご出席の三八会同窓会の皆様のご協力の賜物だと感謝しております。そのことは、同窓会に出席された誰もが、楽しかった、良かった、ご苦労さんと、言って下さった事が如実に現れております。

当日は、関東・関西地区の遠隔地からの出席者をはじめ、27 名の多くの方にご出席いただき厚くお礼を申し上げます。

今年の同窓会には、母校の大濠高等学校より田中慎吾校長先生がご出席いただき、母校の現状など詳しく説明いただいたて、三八会の仲間も今日の母校の繁栄ぶりに心から感銘を受けました。

我々三八会は、今後とも母校大濠高等学校発展のために卒業生としてご支援とご協力をしていくことをお誓いさせていただきます。

同窓会の最後は、百田篤同窓会元会長の音頭で母校大濠高等学校発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念し『万歳三唱』で終了させていただきました。締めくくりと致しまして、次回の三八同窓会を楽しみに、一人でも多くの皆様のご出席を心待ちにいたしましてご挨拶とさせていただきます。



「消防団とは」というテーマで卒業生8人が集まりました。令和8年1月23日草香江のもつ鯛月川で美味いモツをつきながらわいわいガヤガヤと話を弾みました。「地域住民の生命と財産を守る」という活動を続けている大濠卒業生の消防団員。昨年、民家の火事、山火事が多発しています。しかも独居老人宅からの火災では多くの犠牲者が出ています。それに地震・大水害と自然災害もいつ何処で起きるか分かりません。そんな中、消防団とは

1. 素外適当な活動ではないのか
確かに消防団員によってスキルもバラバラです。ですが、毎月の一日の夜警や消火栓点検、防災訓練など目立たずとも地域に根付いた防災活動は真剣に行っています。たとえボランティア活動でも適当にする団員はほとんどいないと思います。なぜなら、実際の火事場がいかにも緊迫した場です。冷静に迅速な動きが求められることを、身をもって体験しているからです。

2. なぜ団員は続けているのか？
「絆と責任感」であろうと思います。訓練や火事場に学び、自分も出来るようになりたいと、先輩たちの背中に見ながら少しずつ団員としての責任感を持つようになります。実際の火災となれば自然と団結し消火活動を行い自分の姿を後輩が見ていて教え教わりながら仲間との絆の輪が繋がっていく。皆が本気だからこそ絆と責任感のある活動が続いていると考えます。

3. 「消防団は本当に必要か」如何でしょうか？
最終的な判断は皆さんの一人ひとりの感想にはなるかと思えます。

青年会議所大濠人の集い

同窓会副会長 堀 秀明(29回卒)

昨年5月12日(月)西鉄グランドホテルに於いて現会員名簿98名中42名の参加で盛大に開催された。河邊同窓会会長の挨拶を封切りにコロナ明けの久しぶりの開催という事もあり和気藹々の内に会を進行することが出来ました。

全国の大濠人の皆さん青年会議所出身者は、積極的に同窓会事務局に連絡を下さい。2026年も開催予定ですのよりで多くの参加者を募ります。



学年幹事・代議員懇親会

組織委員長 山本 純(39回卒)

例年11月開催の懇親会を昨年度は5月17日KKRホテル博多(福岡市中央区)にて開催しました。今年度は大同窓会が変速で夏開催となり、大同窓会前の方が72回生(3月卒業)を含む若手の参加者増も見込まれることもあって代議員会開催日に合わせて参加者約60名にて懇親会を開催しました。

3回生から72回生まで世代を超えた交流が持て、素晴らしい会となった事を心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



第1回 高校同窓会サミット in 福岡

日時：2025年10月4日(土) 18:00～ 会場：福新楼

昨年10月4日、福新楼にて第1回 高校同窓会サミット in 福岡が開催されました。

主催は、筑紫高校と西南学院高校同窓会。役員同士が中学の同級生だったことから話が盛り上がり、各高校の役員を集めて情報交換しようと考えたのが発端だったそうです。今回の集まりは初めての試みだったにもかかわらず、28校の役員約70名が集まりました。各高校の現状と抱える問題についての意見交換が行われました。



主な議題です。
・役員の高齢化・若年層の同窓会離れ
・ホテルをはじめとする会場費等の高騰による運営負担
・幅広い年代が集う場におけるハラスメント防止の必要性
各校様々な問題を抱えて、いろいろな工夫を行っており、見習う点も多々あります。例えば、同窓会の案内パンフレットを作って卒業する生徒達に配布していたり、総会パンフレットに協賛広告やWEB上のバナー広告を行って同窓会の運営資金を調達したり、会報誌をデジタル化したり・・・参考になることも多くありました。参加して感じたことは、時代が変化していく中で、同窓会に関わる役員意識のアップデートは必要だと感じました。これまで積み重ねてきた歴史や伝統は継承しつつ、その時代に合った同窓会活動に変えていく転換期に来ているのだと思います。

高校同窓会サミットは年に1回の開催が濃厚なようです。次回も参加できるのであれば、参加してみたいですし、もっと多くの高校同窓会が参加して情報交換ができる場になればと感じています。

そのうえで大濠高校の大同窓会が、会長の言われる「縦と横」の緊密な連携をはかって魅力あるものにしていくことが、卒業生として大切だと思います。

吉田 聡(40回卒)

県高校OB・OGゴルフ大会38回チームが優勝

メンバー 松尾 健一(2組) 泉 将弘(3組) 間瀬 淳司(1組) 大西 真敏(3組)

昨年8月30日に開催された第13回福岡県高校OB・OGチーム対抗ゴルフ大会に38回卒のメンバー4人で「福大大濠38会」チームとして参加し36校中優勝を果たしました。我々38回卒は20数名のゴルフ好きが集まり、年数回のゴルフコンペを開催しています。本大会の模様毎年テレビ放映されており、38回卒のメンバーとして一度は参加したいと思っていました。

昨年、開催コースである福岡カンツリークラブ和白コースでたまたま大会ポスターを見てエントリーしたところ出場することができました。その時は10位という結果に終わって 悔しい思いをしましたので、次年も出場できれば絶対に優勝を狙っていいと思っていました。この大会は県内約40校が出場できる非常に人気の高い大会で、出場枠に限りがありました。今年も出場権を得ることができました。

昨年の雪辱を果たすべく、今回は38回卒のゴルフメンバーから精鋭を集め本気で優勝を狙いに大会に挑みました。4人の合計スコア(ネットスコア)で争われるため、1人たりとも気が抜けないラウンドとなりましたが、ラウンド途中、TNCテレビの本大会メインキャスターを務められた37回卒の田中健二先輩からの取材によって緊張がほぐれてリラックスできた場面もありました。

その結果として、80台2人、70台2人という高スコアを叩き出し、同メンバーから個人優勝とベストクロス賞も獲得し、チームとしても見事優勝を勝ち取ることができました。

表彰式において壇上で校歌斉唱できたことは大濠人としての誇りでもあります。来年は大濠高校としてどのチームが参加するか分かりませんが、大濠高校OBの名誉をかけて2連覇目指して頑張りたいと思います。



寄付納入ご芳名

回生	名前	金額
1	52 岩崎 健	130,000
2	10 百田 篤	100,000
3	12 毛利 泰介	100,000
4	04 白木 治	30,000
5	30 柴田 洋一	30,000
6	07 児嶋 邦男	10,000
7	17 井口 俊之	10,000
8	32 木下 健児	10,000
9	07 末岡 光臣	10,000
10	24 白土 泰弘	10,000
11	38 山崎 博之	10,000
12	27 井上 真輔	10,000
13	18 城戸 清壽	10,000
14	21 野上 康雄	10,000
15	23 緒方 徹也	10,000
16	20 安河内 俊光	10,000
17	24 高橋 幸寿	10,000
18	34 矢野 宏政	10,000
19	30 森田 力	5,000
20	22 眞崎 徳州	5,000
21	20 植木 久信	5,000
22	04 益永 興一	5,000
23	08 中原 真	5,000
24	14 森 正文	5,000
25	08 佐藤 隆昭	5,000
26	27 村山 伸一郎	5,000
27	08 麻田 春太	5,000
28	鶴田 直美	5,000
29	26 金子 和弘	5,000
30	16 石蔵 利三	5,000
31	31 勝田 秀登	5,000
32	71 宮崎 莉緒	5,000
33	26 澤田 正弘	5,000
34	61 藤木 健太郎	5,000
35	68 藤木 正太郎	5,000
36	12 岡部 孝利	5,000

母校の修学旅行



関東支部では10月に母校の修学旅行に協力し、国会議事堂、(株)SUBARU本社、(株)グローバルヒューマニー・テック、ソニー生命保険(株)、神奈川県庁、(株)ニチレイ船橋第二工場等への企業訪問を実現しました。生徒からの満足度も非常に高く、先生からも「働くということを身近に感じる貴重な経験でした」と、お礼をいただきました。母校への新たな支援と共に将来の同窓生と接する良い機会をいただきましたことに感謝申し上げます。



編集後記

「大濠人」第60号、紙面を刷新して「読める機関紙」を目指しました。記事を集めてみると12ページに膨らんでしまいました。それだけ同窓生や現役生徒諸君が活躍している証なのでしょう。なんと全国大会の記事が多いのは驚きです。

本紙は同窓会活動の「顔」として皆さんの絆を広く、強くする役割を担っています。今回からは現役の新聞部との情報提供の協約も結んで『大濠新聞 NEXUS』からの記事も直接に取り入れられるようになりました。

さらに編集に関心のある方、参加していただくとありがたいです。IT委員会ともタグを組んで広報活動を盛り上げようと思います。

なお記事の中の大濠人と大濠生には基本的に敬称を略します。ご了承ください。様々な自薦他薦の情報を寄せ願えば幸いです。

専用窓口 ohorijin@gmail.com に送信。
400～800字程度で、写真も添付いただくとありがたいです。

